

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	白川町	学校名	白川町立佐見小学校			
校長名	小田 松尚	対象学年	全校	人数	44名	
活動名	ふるさと学習		時間数	42時間	継続年数	16年
題材	① 自然環境 (山野・河川・動物・植物・その他) [佐見川観察・源流登山・干潟観察] ② 歴史 (出来事・史跡・先人・その他) [] ③ 文化 (芸能・芸術・民話・風習・その他) [獅子舞伝承、歌舞伎、郷蔵太鼓] ④ 地場産業 (農業・水産業・伝統工芸・その他) [米作り、大豆栽培] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [歌舞伎公演参加、佐見っ子集会] ⑥ その他 () []					
複数年継続するための工夫改善	<p>【予算、指導者の確保】 伝統芸能は専門的な技能・技術の指導が必要なので、地域講師及び専門家を依頼している。講師料の他に体験料等が必要であるので、白川町「特色ある教育活動推進事業」の助成を中心に、岐阜県「森と水の環境教育支援事業」白川町「緑化活動推進事業」の支援も受けている。</p> <p>【活動時間の確保】 学校行事及び総合的な学習の時間を見直し、児童への負担を軽減しながら活動のねらいが達成できるように、学期毎に評価と改善を実施している。</p> <p>【発表の場の確保】 児童の活動意欲を高め、地域との連携を深めるための発表の場を、地域行事と学校行事に意図的に組み込んでいる。</p>					
<p>1 ねらい</p> <p>(1) 「つながる 山・川・海」・・・ふるさと佐見の自然の豊かさに着目し、「つながる山・川・海」をテーマに、源流の佐見地域の山・川、そして最下流の海とをつなげる活動を通して、佐見の環境のすばらしさを実感させ、自然を守り育てていく心情や態度を育てる。</p> <p>(2) 「伝統文化を学ぶ(地域の一員として)」・・・地歌舞伎(5,6年)獅子舞と太鼓(3,4年)の伝承を通し、地域に伝わる文化を本格的な指導者から学ぶことで、ふるさとを愛し誇りに思う子を育てる。</p> <p>(3) 「おいしさいっぱい さみ小農園」・・・全校児童による栽培活動を保護者及び地域人材(特に高齢者)を講師として実施し、勤労体験を行うとともに地場産業について基本的知識を得ることでふるさとへの愛着心を育てる。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>(1) 「つながる 山・川・海」の学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域講師のガイドで佐見川の源流である尾城山(標高1,133m)に全校で登山をしている。水が湧き出る様子を観察し、水源が豊かな森に支えられていることを実感している。 ・校区の佐見川では、全校佐見川峡キャンプ(7月)、5年生による生物調査・水質検査を行っている。佐見川でのキャンプは、自作したいかだを使った川遊びを行い、清流の素晴らしさを満喫している。河川調査では天然記念物のネコギギなども数多く見つけることができ、環境保全の大切さを実感している。また、漁協の協力で「釣り教室」「アマゴの放流」なども随時行っている。 ・中流域の木曽川ではゴムボートによるラフティング(美濃加茂市→犬山市)を行っている。川に飛び込んだり、激流で水しぶきを浴びたりして水量や水質の違いを肌で感じ取っている。 ・最下流域は名古屋市の藤前干潟において生物や野鳥の観察を行っている。最上流から河口までの観察を通して、水源の里に住むことの喜びを感じるとともに、一つながりの水の流れが生き物のくらしに密接に関係していることを感じ、環境保全への意識を高めることにつながっている。 <p>(2) 「伝統文化を学ぶ(地域の一員として)」の学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5,6年生は地歌舞伎の伝承を地域と一体となって行っている。地域の指導者に加え、振付師の方も加わり、あいさつや礼儀の指導もいただいている。この取組を通し、指導者や地域の方の思いに触れるとともに、芸術の奥の深さやその価値を身をもって体感している。 ・発表は、地域の公演会(佐見歌舞伎)と公民館まつりで2回行っている。5,6年生全員が参加し、堂々とした演技で好評を博している。 ・3,4年生は太鼓と獅子舞を地域の方から学んでいる。獅子舞の歴史を知ることで、地域の歴史や 						

他地区とのつながりを理解することができている。また、祭礼などでの発表も増え、地域との関わりが増えている。

(3) 「おいしさいっぱい さみ小農園」の学習について

- ・全校でのモチ米栽培、中学年での大豆栽培と豆腐づくり、茶摘みと製茶、低学年でのサツマイモづくりを行っている。大豆、お茶の栽培は地域を代表する地場産業で、工場の見学やインタビューなどを通して、ふるさとを総合的に学んでいる。
- ・モチ米栽培は、田植え、草引き、案山子づくり、稲刈り、脱穀、精米、販売までの一連の作業を体験している。この活動を通して地域の方々と触れ合うとともに、自然の中で生きる素晴らしさを体感している。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・活動のほとんどを地元の講師に指導をお願いしている。11月には収穫祭である「佐見っ子まつり」を行い、収穫したモチ米を使った餅つきと豚汁の会食をしながら地域の方々や保護者と交流をしている。収穫の喜びを分かち合い、お世話になった方へ感謝の気持ちをステージ発表や交流活動で心豊かに表している。
- ・歌舞伎公演や公民館まつり、夏まつりなどの地域の行事を発表の場として教育課程に位置付けている。学習成果の発表を通して、地域の方と交流をしている。
- ・平成25年度から地域を紹介するCM (DVD)、番組「ふるさとに生きる人々」(DVD)を制作している。地域の行事での発表やケーブルテレビでの放映を通して情報発信をしている。

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

- ・環境への関心が高まり、身近な生き物と親しむ児童が増えるとともに、汚れた水を流さないなどの実践的行動をとる児童が見られるようになった。
- ・へき地小規模校であるが、人前で活躍する機会が多くなり、自信をもって発表したり、自分の言葉で感想を述べたりするなどたくましさを感じられるようになった。
- ・地域の祭礼や公民館行事、環境美化活動に積極的に参加する児童が増えている。進んで地域や地域の人とかかわろうとする姿が見られるようになった。

☆歌舞伎公演の感想から

- ・成功した時のうれしさを初めて知ることができた（6年生）。
- ・「いやだ」と言っていた頃の自分に、歌舞伎の楽しさを教えてあげたい（6年生）。
- ・子どもが、意外にも堂々と演じていて、普段と違う姿にびっくりしました。涙がこぼれました(保護者)。
- ・5、6年生全員が出演できたことがいい思い出になるとともに、将来佐見を離れても、ふるさとに対する思いにつながっていくと思う（地域の方）。



地歌舞伎で見得を切る5,6年生